



研究テーマ：空き家の地区拠点施設としての可能性とその条件に関する研究

研究者：木村 智

KIMURA Satoru

(工学部建築学科 助教)

【研究・開発の目的】

全国的な問題の空き家ですが、人口減少時代では経済的、物理的にも全てを改修することは不可能です。しかし、そのままにしておけば特定空き家となり景観を害するだけでなく、災害時には倒壊が生じ、周辺環境に悪影響を及ぼす可能性があります。そうした問題に対して、解体も含めた対策を検討する、利活用すべきか否かの判断条件を明らかにする、利活用のためのモデルケースを提案することが研究の目的です。

【研究・開発のきっかけ】

イタリア近代建築史という範囲で建築家や構造家の思想を研究する傍で、建築物の保存運動や活用の実例を見てきました。しかし、日本では新築の傾向が強く、歴史的価値を持つ建物が次々に解体されている現状に対して疑問を抱いたことがきっかけです。

【研究・開発の概要】

大分県の空き家バンク内の事例を中心に調査し、その中で実際に活用された空き家のケーススタディを行います。大分県内の福祉や宿泊施設、オフィス等として活用された事例を分析し、活用可能な空き家の条件を考察します。昨今、地域コミュニティの希薄化が問題視される中で、地域拠点施設としての空き家の可能性を探る必要があるのです。

【研究・開発の特色】

1. 歴史的文脈を考慮したデザイン

昨今の空き家改修の実践では、現状維持や新築時の状態に戻す単なるリフォームとして行われることが多いです。本研究では、周辺建物との関連性や歴史を踏まえ、機能を付加するなど、空き家の物理的、社会的な意義を構築していくことを試みます。学術的な調査に基づき、歴史文化の復興の一つとして、空き家の活用方法の構築を目指します。

2. 構造デザインに配慮した耐震改修

一般的な耐震改修は外壁にX型やK型ブレースが設けられ、金物を多用するなど構造的な安全性が最優先されますが、審美性への配慮も必要です。画一的な補強ではなく、各部材の特性を活かして、構造体全体として内外部の応力に抵抗するデザイン配慮型の改修を実現します。それにより、地域の防災・減災につながる活動へとしていきたいです。

【今後の展開】

近年、別府市の鉄輪では空き家の利活用が盛んに行われています。それらの最新事例を評価し、大分県における空き家活用の指針の構築へと繋げていきたいです。

【今後の課題】

これまでの別府市の事例では、シェアオフィス、ブックカフェや宿泊施設といった機能で、空き家の活用が実現されています。今後の空き家の増加に備えて、他府県の事例も参照するなど、別機能の空き家利用について、ケーススタディの範囲の拡大が必要です。さらに、学生の住環境の向上も必要であり、学生アパートでの利用も検討します。

【その他の情報】

連携実績：県内建築設計事務所、NPO空き家サポートおおいた、歴史都市防災研究所

【地域・企業へのメッセージ】

みなさんが生活する地域をよりものにするためには、個々人の活動を積み重ねるだけでなく、集団として団結し、成果を積み上げることが必要です。本研究を含む学術的な調査や、その成果発表を通じて、大学が地域や企業と交流するためのきっかけになればと考えています。よろしくお願ひします。